

## 杵差岳 (えぶりさしだけ)

日程	9月16日(日)～18日(火)
行程	1日目 松戸 7:00＝東北中央道＝国 113＝飯豊山荘 13:30
	2日目 飯豊山荘 7:30－地神北峰 12:50－頼母木小屋 13:45
	3日目 頼母木小屋 4:50－杵差岳 7:00－頼母木小屋 9:10－地神北峰 10:30
	飯豊山荘 13:55

杵 この字読めますか？ 私はこの名を聞いた時、北海道の山？と思いました。

この杵(えぶり)というのは昔の農具の名で、雪解けと共に山に現れる雪形がこれを担いだ人の姿に似ていることから、地元の人たちに親しみを込め呼ばれてきた山名なのです。飯豊山地の北部にある二百名山の一つです。



奥に見えるのが杵差岳

天気を心配しながらの出発でしたが、東北道を進むうちに天気はどんどんよくなり、白い小花の咲くそば畑、黄金色の稲穂が光を浴び、秋の訪れを感じさせてくれました。

午後2時前には飯豊山荘に到着、ここは温泉があり木々に囲まれ、後ろには大きな沢が流れる気持ちのいい宿でした。

夜になると沢音に重なって大雨の音が響いてきました。朝になっても雨は降りやまず30分遅らせ7:30に出発時間変更、ところがその頃には雨はほとんど止んだのです。

いよいよ、標高差1300mの丸森尾根を登ります。入山口から、段差のある急登が始まります。思い切り足を延ばし、枝をつかんで小柄な我々女性3人は悪戦苦闘の連続でした。途中、ナラタケが左右の木の根元にごっそり生えていて、キノコに詳しい和田さんの指導のもと、鴨志田さんが上手に収穫していきます。(小屋では安全を考え食わず、和田さんが持ち帰り下処理をしたものを分けてくださいました。天然の味は深みがあり、サクサクとした歯ごたえは格別でした。)



こんなことに気を紛らわせ、頼母木山への分岐に着く頃には霧の合間から雄大な飯豊の山々が見えてきました。稜線にでると風が強く、ストックで体を支えながら歩きました。それでも、甲田リーダーの好ペース配分のおかげで出発を 30 分遅らせたにもかかわらず、予定より 1 時間以上早く頼母木避難小屋に着きました。この避難小屋は立派で水は豊富、トイレ

は清潔、結局、我々五人で貸し切り、楽しい小屋泊になりました。気が付くとまた大雨。

ところが翌朝、杵差岳登頂を目指し出発するころには雨は上がり東の空が明るくなってきました。なんとついでなのでしょう!!

往復 5 時間の行程です。行きは夏の名残のウメバチソウ、ハクサンイチゲ、ハクサンフウロ...

など数多くの花を楽しみながらの稜線歩きでした。夏はさぞかし見事な花園が広がっていたと想像されます。そして頂上に着くころには霧も取れ、幾重にも重なる飯豊の山が見え、山深いところへ来たんだと実感しました。帰りの小屋までは山々を眺めながらの気持ちのいい稜線散歩をしました。



ナラタケ

この杵差岳の本当の厳しさを知ったのは、登ってきた丸森尾根の下山時でした。道はえぐれたり、ザレたり、岩があったり、木の根がからんで

いたり急坂、上りはがむしゃらに登れても、下りは滑ったり転んだりしないように一步一步慎重に気を引き締めて下りました。これが下山口まで続くのです。

それでも時折、丸森尾根に沿って右側に伸びる梶川尾根に目を向けると、幾本かの沢が白く光り、轟音をたてて流れる様は豪快で飯豊がいかに水の豊富な山なのか、だから花が多いんだということを教えてくれました。

上りも下りもきつかったけれど、数々の花、秋の実りのキノコ、色づいてきた木々などを楽しみ、遠くまでのびた穏やかな稜線を歩いたこの快感は忘れられない思い出となることでしょう。

計画してくださった甲田さん、ご一緒した皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。